

平成29年度 学校評価

平成30年3月27日

1 本年度の重点目標

<p>全日制課程</p> <p>－人間性豊かな生徒の育成を期して－</p> <p>(1) 志高く学問に対する興味関心を深め、知的好奇心をもつ喜びが味わえる生徒。</p> <p>(2) 学習、行事、部活動等に積極的に参加し、自らの意志で学校生活を創造する生徒。</p> <p>(3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒。</p> <p>定時制課程</p> <p>－人間性豊かな生徒の育成を期して－</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自ら努力する姿勢をもった生徒。</p> <p>(2) 学習への意欲を高め、進路目標の実現に向けて努力する生徒。</p> <p>(3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒。</p>
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【全日制課程】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に基づく教育活動は多方面で成果を挙げた一方、改善のためのPDCAサイクルの確立に課題がある。評価に直結する経営シラバスや自己評価の在り方に大幅な改善が必要である。 ・校務の効率化、協働体制の確立、公平感の醸成のために、校務分掌の再編は喫緊の課題である。 ・地域や保護者の要望に応えられるよう、有効な情報発信や、外部の意見を集約す体制の確立が必要である。 ・真の学力向上への取組を見据え、行事の精選、時期の検討、授業計画などを総合的に議論する必要がある。 ・危機管理マニュアルの作成、自転車通学指導、列車添乗指導など、危機管理意識の高揚に努めた。 ・教育活動をより効果的、協働的に展開するために、教職員の意見交換の場を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の真摯な努力に敬意を表する。また、教職員の多忙感、疲労感の軽減については、例年課題となっているが、外部の人材の活用も視野に入れた具体的な取組を期待する。 ・新学習指導要領による教育課程の編成において、次代の生徒に必要な力を整理し、東高らしい教育活動が行われるよう期待する。 ・学校評議員の役割についてより明確にするとともに、自己評価や学校関係者評価の在り方について充実を図られたい。 ・自己評価、改善方策については適切である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動における課題の重点化と確かな根拠に基づく達成の検証を行い、学校運営の改善に資する学校評価システムの再構築を行う。 ・本校の特色ある教育活動を積極的に発信するなどして、地域や保護者に対する情報発信の強化に取り組む。 ・校内組織の見直し、分掌の再編、会議の短縮等を通して業務の効率化、時間外勤務の縮減に取り組む。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査の分析により、生徒の学習状況の把握に努め、指導に生かすことができた。 ・部活動や学校行事等に全力で取り組ませることと、十分な学習時間の確保との両立が課題となっており、学校行事の精選や生徒に身につけさせたい資質・能力及び目的等を明らかにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校や地域での学習機会にも積極的に参加し、常に刺激を持つことも大切である。 ・定期的な講習以外にも個別添削など、きめ細かな学習指導が行き届いていると聞いている。先生方の努力に敬意を表したい。 ・子どもたち個々のやる気や学習意欲を引き出している。今後も教師と生徒のコミュニケーションを大切にし、個性を伸ばして欲しい。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価を実施しているが、その結果を授業改善に十分生かしてきているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々に、実際にどのような学力が身についているのか、身につけさせようとしているのかを明らかにすることは、学校PRの上でも重要なことである。 ・自己評価、改善方策については適切である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に育成を目指す資質・能力をさらに明確にし、教科間のつながりや学習・指導の改善を踏まえた新しい教育課程の編成を目指す。 ・生徒の学習の量的確保と質的向上に取り組むとともに、生徒の授業満足度と評価の改善に努める。 ・生涯にわたる知的態度の涵養を目指し、様々な知的刺激が得られる機会や外部との連携に努める。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣や規律の面での指導について、教職員の共通理解による継続的で系統的な指導が必要である。 ・忘れ物、落とし物などが目立ち、私物を大切に管理する指導も必要である。 ・SNSやスマホの使用マナーについて、高い次元での啓発や指導の充実が求められる。 ・生徒会活動や委員会活動の目的を明確化し、身につけさせたい力の獲得に関する成否の検証が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良い挨拶や身なりについては、きちんと出来ている。 ・公共交通機関でのマナーについて、時折苦情があるとのことなので、引き続き指導に努めてもらいたい。 ・自己評価、改善方策については適切である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事について、生徒に身につけさせたい資質・能力や目的を明確化し、達成度合いの検証に努める。 ・規範意識の涵養、挨拶、私物の管理、スマホの利用等に係るルールやマナーについて、教職員の共通理解のもとで適切に実施する。 ・いじめ防止に関する取組に努め、すべての生徒が安心して学習や部活動に取り組める体制を確保する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・受験指導に対する各学年による取組やノウハウの次年度への引継ぎが十分でなく、組織的、効率的な運営が必要である。 ・大学入試改革に向けて、生徒の学習履歴、活動履歴の効果的な蓄積に努める必要がある。 ・進路講演会については一定の評価を受けているが、提供する資料や内容の工夫、充実を図りたい。 ・外部模試の活用について、費用に見合うより一層の効果を求めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現については、地域の大きな関心事でもあるので、引き続き尽力願いたい。 ・大学入試改革への対応について、情報を確実に入手し、生徒や保護者への情報提供も含め、適切に進められたい。 ・自己評価、改善方策については適切である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に係る各行事が、企画書により継続的に実施されるよう改善するとともに、評価や効果の検証にも努める。 ・新しい大学入試に関する試験内容や書類等の見直しに関して積極的に情報収集し、生徒や保護者への情報提供に努める。 ・保護者向け進路講演会の内容や提供資料について改善を図る。 ・外部模試等の目的や意義を再確認し、生徒への指導の充実に努める。 	
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの適切な連携により、特別な教育的支援が必要な生徒に対する指導に努めることができた。 ・休日の不審者対策についてより一層の充実が求められる。 ・自身の健康や体調管理に課題の見られる生徒が見受けられ、対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動を促進するとともに、防災意識の高揚、ケア体制の充実に努められたい。 ・生徒との継続的なコミュニケーションと関係機関との連携に努められたい。 ・自己評価、改善方策については適切である。

改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援が必要な生徒について、早期に把握できる体制や個別の指導計画の充実、教職員間の情報提供など、組織的な支援体制を構築する。 ・生徒個々の健康・体調の管理が行われるよう、組織的な指導を行う。 ・非常災害への対応や不審者対策など、危機管理体制の点検・見直しを行う。
------	---

【定時制課程】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの指導等の授業規律の面での組織的指導が不十分である。 ・欠席や成績について生徒への指導、保護者への連絡が後手になっている。 ・総合的な学習の時間が有効に活用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即し、今後の社会生活に有用な「何ができるようになるか」を明確にした教育活動を期待する。 ・自己評価、改善方策については適切である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談的な手法等で、統一した組織的で段階的な指導を行う。 ・遅刻、欠席、中抜け等の指導については基準を設け、生徒・保護者に対して早い段階から積極的にアプローチする。 ・総合的な学習の時間の内容を豊かにし、キャリア教育やコミュニケーションスキルの向上等、計画的に実施する。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々への対応が進んできたが、組織的な取り組みとなっていない。 ・行事の活性化を進めたが、より生徒が興味関心をもてる内容になるよう一層の工夫・改善が必要である。 ・既存の部活動だけでなく、生徒の居場所作りとして、放課後の活動を活性化させたが、それらに対する支援体制が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や精神的に不安な生徒が増え、定時制の役割が大きく変化してきている。現状に則し、生徒が基本的な力をつけ、希望をもつことができるような指導をしていただきたい。 ・全日制と定時制のPTAの交流を深め、生徒の活動を支援できる体制を作るべきである。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成や、個人面談の一層の充実等、組織的な個々への対応を図る。 ・保護者の参加を図る等、行事が活性できるよう工夫・改善を進める。 ・同好会組織の活用等、生徒の積極的な活動を支援できる体制を構築する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問やインターンシップは実施したが、参加生徒が少なく、より早い段階での進路指導の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の大きな社会の変化に対応できる、人材を育成できるような進路指導をしていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を用いた、より具体的な就労に関する指導を実施する。 ・複数学年でインターンシップを募集し、就労体験を重ねさせる等、生徒の意欲が少しでも向上するような指導を行う。 	
保健指導	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭による個別の健康相談や保護者との連携が充実したが、全体的な健康教育の指導が計画的に成されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割が変質してきた定時制の必要性を踏まえ、個々の生徒への対応の充実は必須である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・保健講話等は生徒の興味関心を維持できるよう4年間異なった内容となるよう計画し、健康教育の充実を図る。 ・個別の健康指導の一層の充実のため保健室利用のルールを精査する。 	
公表方法	本校ホームページ上に公開するとともに、学校評議員、PTA役員等に配布する。	